

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本研究科学生用の共用研究室を整備する	→2010年3月までに設置	D	C	C	B	B
2. 本研究科学生のための研究支援、海外調査支援、研究成果公表支援の妥当性について、定期的に見直しを行う	→見直しのための教授会を1年に1回開催する	C	B	B	B	B
3. 本研究科教員・学生の研究倫理のコンプライアンスについて、定期的に見直しを行う	→研究推進社会連携機構への研究倫理に関する相談件数/研究倫理で研究科として判断に苦慮する案件数	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士課程学生の研究用スペースの確保を大学当局に継続的に求めている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 博士課程学生専用ではないが、PCを配備した自習室、また大学図書館には個別ブースもあり、研究環境は最低限整備されていると考える。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も大学に対し、博士学生の研究用スペースの確保を求める。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生への研究支援については、研究報告を行う場合の学会への旅費補助、海外調査等への旅費補助、コピー費補助、研究科発行紀要への投稿権付与、大学図書館購入図書選定にあたっての希望聴取、アンケート調査等への支援を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 見直しのための研究科委員会(教授会)は開催していないが、上記補助等は研究科委員会で推薦・報告等を行っており、実質的に検討しているものとする。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各種補助の内容について、見直しの必要があれば原案を策定し、研究科委員会(教授会)にて検討する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科教員・学生のコンプライアンスについては、全員が常に細心の注意を払っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か コンプライアンスについて現状では問題となっていることはない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も各人がコンプライアンスについて意識し、必要であれば研究科委員会(教授会)で検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	